

兵庫・北村廃寺

きたむら

1 所在地 兵庫県伊丹市北園

2 調査期間 一九八七年(昭62)二月～三月

3 発掘機関 兵庫県教育委員会

4 調査担当者 甲斐昭光・別府洋二・村上泰樹

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 弥生時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡の東側を猪名川が南流し、西側には伊丹台地が控え、東側は猪名川の支流、駄六川が流れる。遺跡は、猪名川・駄六川の氾濫によつて生じた沖積地・微高地上に立地している。

遺構は平安時代後期から室町時代中頃までの掘立柱建物・池が検出された。報告する卒塔婆は、一五世紀中葉から後葉までの池から出土している。池の規模は、南北五m東西四・二m以上



(大阪西北部)

で、深さは〇・七～一・三mである。池底の周囲には川原石を敷き並べ護岸している。卒塔婆は、この護岸石に挟まれた状態で出土した。このほか、池の埋土中からは、梵字を刻んだ軒丸・軒平瓦が出土している。

8 木簡の积文・内容

(1)

衆生 道

寛正

(740)×58×5 061

墨書はすべて消えており、文字の全容は明らかではない。墨書部分がわずかに隆起しており、その一部が判読できた。塔身中位までは一行分の文字が確認でき、中位から下位にかけて二行分の文字の痕跡が確認できた。寛正は記載位置から年号ともみられ、その場合、一四六〇年から一四六六年にあたる。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『北園遺跡発掘調査報告書』(兵庫県文化財調査報告書九一、一九九一年)



(村上泰樹)